



1. 背景・課題

(1) 国の方針

公共交通機関、美術館・博物館、観光地等の外国人目線に立った多言語対応を強化・改善するため、ICTも活用しつつ多言語による案内表示等の充実を図る。

(2) 阿波人形浄瑠璃振興拠点となる阿波十郎兵衛屋敷の現状

1日2回の定期公演に加え、阿波藍・吉野川との関連ストーリーを含めて阿波人形浄瑠璃構成要素を解説している。
総来館者数はコロナ禍前に戻りつつある中、外国人来館者数の割合についてはコロナ禍の2倍となっており、中でも韓国・中国・台湾・フランスからの増加が著しい。また、令和6年に徳島あわおどり空港発着の香港・韓国直行便が就航したことにより、空港近くに位置する当施設においては、東アジアからの個人来館者の増加が見え始めているところ。

このような中、阿波十郎兵衛屋敷における多言語対応状況については

【観覧場】1番の売りとなる定期公演での字幕は＜日本語・英語＞のみ。

【展示室】人形頭や阿波人形浄瑠璃構成要素の解説文は、＜日本語・英語＞併記のみ。

【職員対応】外国人団体客については職員1名が付いて解説しているが、職員独自の英会話となっており、外国人観光客における理解度や満足度に手応えがない。また、各国がまとまってツアーを組んでいることもあり、対応しきれない場面が多い。

⇒阿波人形浄瑠璃の演目は、日本人でも解説なしでは理解が難しいといわれるあらすじ・台詞となっており、外国人来館者が理解するには相当な難易度である。
そのような中、全ての多言語をパネルに併記するスペース確保は不可能。
職員対応にも限界があり、英語圏以外の方に深く阿波人形浄瑠璃を理解できる環境ではない。

＜参考1＞外国人来館者割合
(外国人来館者数/総来館者数)
H30年度: 3.6% (900人/24,926人)
R6年度: 7.7% (1,532人/20,020人)

＜参考2＞令和6年度国別外国人来館者数
1位 アメリカ (271名)
2位 フランス (206名)
3位 台湾 (181名)
4位 オーストラリア (117名)
5位 韓国 (77名)
(外国人来館者総数: 1,532名)



増加する外国人観光客がストレスフリーに、
深く阿波人形浄瑠璃を理解できる環境を整備する必要がある。

=デジタル技術による多言語環境の整備

2. 事業概要

施設内において、英語・韓国語・中国語（繁・簡）・フランス語への多言語対応を実施

- ① **観覧場**での公演において、現在の英語翻訳に加え、中国語（繁・簡）・韓国語・フランス語の字幕を作成。
団体客は既存のモニターで対応し、個別客についてもスマホ等で字幕表示し、できる限り母国語で楽しめる環境に。
- ② **展示室**の作品や人形遣い等の阿波人形浄瑠璃構成要素について、QUコードから解説ページへの誘導やデジタルザイネージを通して写真・動画を用いた視覚的な解説を実施。
- ③ **長屋門・主屋**: 建物そのものの価値・歴史について、QUコードから解説ページへ誘導。

3. 事業効果

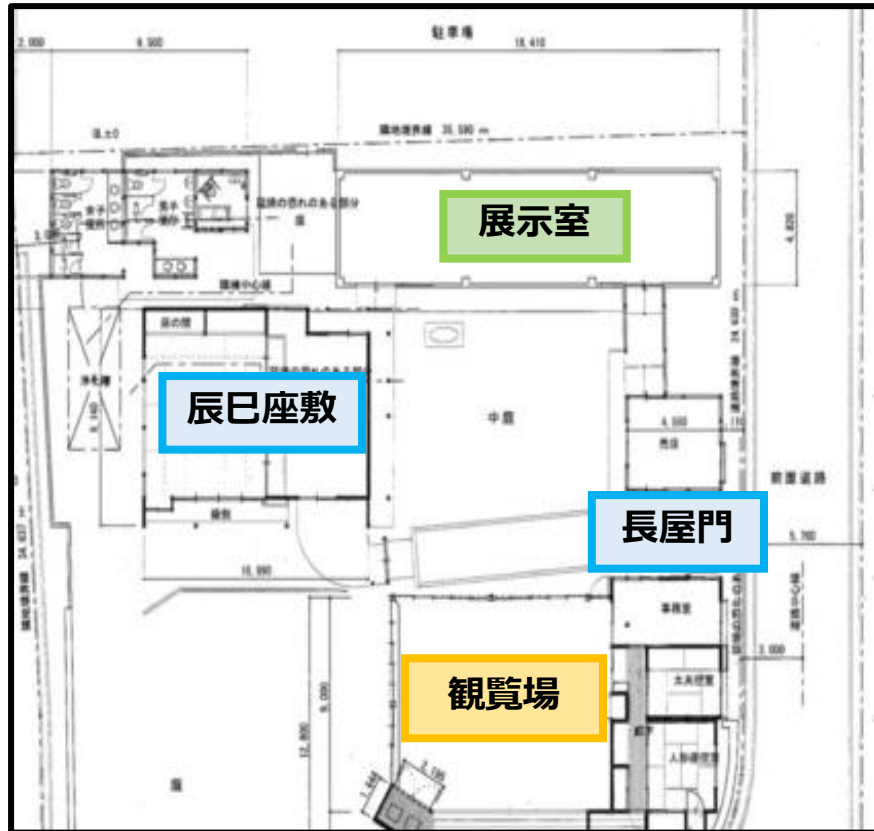
媒体化による視覚的な魅力発信により、阿波人形浄瑠璃をはじめとする徳島の文化についてより一層理解してもらうことで、更なる外国人来館者の増加を図るとともに、関連施設への周遊や他国との文化交流を通じた関係構築を目指す。

＜活用予定国庫補事業・スケジュール＞

- 1 **観光庁「地域管区資源の多言語解説整備支援事業」**
観光庁の直執行により、外国人ライターが現地取材を通して観光資源の英語解説文を作成。作成した英語解説文を元に、中国語・韓国語への解説文作成まで実施。
R7.3月末: 観光庁より選定決定
7月: 解説文作成のため取材
10月～: 英語解説文納品 / ～R2: 韓国語・中国語解説文納品
- 2 **文化庁「文化財多言語解説整備事業」**
1で作成した解説文の媒体化に係る経費補助。
9月: 交付決定があり次第業者選定
10月: 契約・事業着手
～3月: 納品

整備後については、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷において媒体の管理、徳島県文化振興において現状及び評価指数の把握。

5カ国語とは
 ・日本語
 ・英語
 ・中国語（繁・簡）
 ・韓国語
 ・フランス語



展示室：阿波人形浄瑠璃の代表的な人形や作品を展示。

人形遣いや農村舞台などの構成要素についても解説しており、現在は日本語・英語の解説文をパネル表示している。

▶▶多言語対応

代表的な人形や頭、阿波人形浄瑠璃構成要素について、QRコードから解説ページへ誘導し5カ国語に対応した解説文を表示。また、デジタルサイネージを設置し、動画・写真を用いて視覚的に解説し、個人のペースで深く阿波人形浄瑠璃を理解できる環境を整備。



観覧場（140席）：1日2回の定期公演「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」を実施。



現在は舞台上に設置したモニターに、日本語・英語字幕を表示。

▶▶多言語対応

既存のモニターを活用し、団体客用に5カ国語の字幕を表示。（＝団体客の国籍により表示言語を変更する。）また、個人客がスマホ等を通して内容が理解できるよう、解説ページを作成し、母国語で阿波人形浄瑠璃を楽しめる環境を整備。

辰巳座敷



長屋門

辰巳座敷：特別展示・講座開催会場として活用 / 長屋門：受付・売店・太夫控え室として活用

どちらも建築年数約150年を超えており、昭和29年に小松島市の藍商屋敷より現在地に移築された。歴史的景観や造形の模範として、令和6年国の有形文化財に登録。これらの評価価値等についての解説文は、日本語含めて整備されていない。

▶▶多言語対応

登録証の横にQRコードパネルを設置し、QRコードから解説専用ページに誘導。5カ国語に対応した解説文で建築的・文化財的価値を知ってもらい、施設内で過ごす時間の満足度を上げる。